

STEP.2-業界・職種・企業研究

業界・職種・企業研究とは?-----p.8

職種について-----p.10

業界・職種・企業研究の進め方---p.8

企業研究-----p.11

業界について-----p.9

情報収集-----p.12

■業界・職種・企業研究とは?

自己分析と同じくらい大切なのが、業界・職種・企業研究です。社会にはどのような仕事、会社があるのかを知り、業界や職種、企業研究を理解し、視野を広げていきましょう。この研究は、志望動機、「どうしてその企業のその職種に応募したか」を考える際にも重要なポイントになります。また、実際にその企業に入ってからギャップを軽減するためにも、しっかりとやっておく必要があります。

■業界・職種・企業研究の進め方

業界・職種・企業研究の進め方を簡単にまとめてみましょう。

業界

- どのような業界（事業や業務の種類）があるのかを把握し、その中で興味・関心のあるものについて調べましょう。
- その業界の現状や将来性を知ること、さらに業界を絞り込みます。

職種

- 業界研究と同時に、職種についても調べましょう。世の中にはどんな職種があるのでしょうか。また、同じ職種でも業界によって働き方が様々なので、その点も調べましょう。
- 自分がどんな仕事をしたいか、どんな形で社会に貢献したいか、また、将来どうなっていきたいかを具体的に想像することで、さらに職種を絞り込みます。

企業

- 業界・職種をある程度固めたところで、それぞれの企業についても調べましょう。同じ業界の同じような仕事をしている企業でも、その働き方や理念は様々です。
- 一つの企業に集中するのではなく、同業種の他の企業と比較し、自分にとっての魅力となるポイントを見つけることが大切です。

■業界について

業界の一覧を記載しますので、参考にしてください。

モノをつくる＝ メーカー	・建設・住宅 ・食品・飲料 ・電機・電子・機械	農林・水産・鉱業 アパレル 化学・医薬品・化粧品	自動車 鉄鋼
モノを売る＝ 商社・小売業	・商社（総合商社・専門商社） ・小売業（百貨店・スーパー・コンビニ・専門店）		
形のないモノを売る＝ サービス業	・運輸（陸運・海運・倉庫） セキュリティ コンサルティング ・旅行・ホテル 人材サービス エネルギー（電力・ガス） ・医療・福祉・介護 設計（建築・機械） 理容・美容		
お金に関わる＝金融	・銀行（メガバンク・地方銀行） ・保険（生命保険・損害保険） 証券 カード・リース		
情報に関わる＝ ソフトウェア・通信・情報処理	・マスコミ（新聞・放送・出版） ・情報処理・ソフトウェア 通信・ネットワーク（電話）		

この表に載っている業界が全てではありません。この中ではくくりきれない業界や、さらに細かい業界分類もあります。興味をもつ業界があれば、詳しく調べてみましょう。

▶ あまり絞りすぎない

業界を絞るにしても、絞りすぎには注意しましょう。早期に絞りすぎてしまうと、その業界の企業に内定がもらえなかった場合、また振り出しに戻ることになります。それとは逆に、業界を広げすぎてしまうのもおすすめしません。自分がしっかりと研究できる範囲、4～5程度の業界で考えるのが一番効率的かと思います。

▶ 業界の動向を調べる

業界の今までの発展歴や、これからの展望も調べましょう。業界の過去・現在・未来を知ること、さらに深みを増した志望動機を組み立てることができます。

過去	現在	未来
・どんな歴史があるのか ・最近（5年から10年） の市場規模の推移	・市場の動向 ・どれだけの企業が存在し ているか ・新規参入の可能性・頻度	・次の5～10年の動向の 予測 ・企業全体で抱える課題や 問題点

▶ 大学主催の「業界研究会」に参加する

来年（2020年）の1月14日（火）～16日（木）に、学内で「業界研究会」を開催します。業界を代表する企業や優良企業などが参加するので、必ず参加しましょう。

■職種について

簡単に、職種の一覧を掲載しておきます。

営業・販売系	・個人営業 法人営業 MR（医薬品販売） ・販売 パイヤー
事務系	・財務・経理 総務 人事 企画 広報 ・営業事務 一般事務 マーケティング
技術系	・設計・施工管理 開発 品質・生産管理 ・システムエンジニア（SE） プログラマー
クリエイティブ系	・デザイナー 記者 編集 ・コピーライター 番組製作
専門系	・教員 建築士 ・客室乗務員

この表に掲載されている職種はあくまで一部です。その他にもたくさんの職種があるので、調べてみましょう。

➤ どんな仕事がしたいかを考える

どんな仕事をしたいかを考えるには、これまでの自己分析を活かしましょう。自分の興味・関心をもとに、どんな仕事をしたいか考えてみましょう。また、自分自身が3年後、5年後、10年後、どんな仕事をしていて、どんなポジションについていたいか・・・という将来像について、できるだけ具体的に目標を持ちましょう。

また、自分の強みをどんな形で活かせるかも考えてみましょう。自分の強みを発揮でき、かつ、なりたい自分になれる職種を見つけることが大切です。

➤ 同じ職種でも、業界によって仕事内容はさまざま

職種が同じでも、業界や企業によって仕事内容は様々です。例えば、同じ営業でも個人宅に飛び込んでいく営業と、お得意先の企業とじっくり話を詰めていく営業では全く質が違います。また、顧客層によっても大きく変わります。例えば、お年寄りの方を相手にする営業（介護用品販売など）と大工さん相手の営業（建材の販売など）とでは、同じ営業でも求められる営業の質は大きく違います。

このように、その業界・企業の扱う商品や、相手となる顧客なども見極めたうえで研究を進めることで、よりリアルな自分の将来を描けるでしょう。

■企業研究

「働く」という視点を持って研究する

企業研究において注意すべき点はイメージ先行になってしまわないことです。有名だから、その企業の商品が好きだから・・・といった理由は、企業を調べ始めるきっかけにしかなりません。また、イメージ先行の志望動機はどうしても浅くなりがちで、人事の方には見抜かれてしまいます。実際自分がそこで「働いて」いる姿を「企業のイメージを除いて」「客観的に」見極めることが大切です。そういった企業研究を続けることで、たとえ世間では有名でなくても、優良で、かつ、自分にとって働きがいのある企業を見つけることができるはずです。

自分のやりたいことをはっきりさせておく

同じ業界の同じ業種の企業でも、志向が違う場合が多々あります。自分自身にとって働き続けるうえで何が一番大切かという「軸」を持って企業を研究するようにしましょう。軸を持てば、企業を絞り込む際の判断もしやすくなります。

幅広く、深く調べる

業界を絞って企業を調べ始めても、どうしても有名企業ばかりを調べて全てを知った気になりがちですが、幅広く、いろんな企業を調べましょう。そして、自分が調べる企業＝将来入社して働き続ける可能性のある企業と捉え、その企業で働いている自分の姿を具体的に想像して調べるようにしましょう。事業内容、従業員数、売上だけでなく、企業理念や求める人物像、財務状況や採用選考・・・等々、あらゆる視点から調べましょう。

企業を比較・検討し、絞り込む

研究をしたうえで、それぞれの企業を比較してみると、必ず違いが出てきます。その違いを知ることで、企業ごとの特徴を知ることができ、その企業の強みや弱みを発見することができます。もし、その特徴が、将来なりたい自分の軸と合致したなら、その企業はあなたの志望する企業といえるでしょう。また、比較検討し、絞り込む際にも色々な視点を持って比較することが大切です。将来の実現、理念、勤務条件、福利厚生、研修制度・・・多方面から企業を見比べ、魅力に感じた企業を「志望企業」として選考に臨みましょう。

➤ 時間がかかるが、あきらめない

自分の知っている企業は、社会全体から見ればごく一部だったということがわかるでしょう。今まで関わりのなかった企業研究には、時間と労力を費やすことになるかもしれませんが、しっかりと企業を見ておくことで、将来、自分が働く際のギャップを減らすことができます。また、採用選考でも志望動機は必ず問われる点なので、選考のためにも、ここでしっかり調べておきましょう。

▶ テレビ番組

- 「ガイアの夜明け」、「カンブリア宮殿」、「ワールドビジネスサテライト」(テレビ大阪、びわ湖放送など)
- 「ニュースウォッチ9」、「プロフェッショナル 仕事の流儀」(NHK)
- 「ニュース23」(毎日放送) ○「報道ステーション」(朝日放送) etc.

■「足」で稼ぐ情報

本やデータで情報収集するだけでなく、自分で足を運び、さまざまなセミナーに参加すること、また、OB・OG訪問などで現場を知ること大切な情報収集となります。

▶ 学内就職セミナー

学生支援センターの開催する就職支援セミナーは、みなさんがしっかりした就職活動ができるようプログラムされています。また、就職活動支援のプロとして活躍中のさまざまな講師がみなさんのために講演をします。必ず参加しましょう。

▶ OB・OG訪問

OB・OG訪問は、「生きた企業情報」を得られるということと、身近な社会人と接することで自らを磨く良い経験になるという二つのメリットがあります。

あなたの第一志望の企業を訪問することが一番良いのですが、先輩がいなかったり、企業の採用担当も紹介をしていなかったりと、うまくいかない場合は、同業他社に間口を広げて探してみましよう。また、学生支援センターの窓口でOB・OGの連絡先照会もしていますので、活用してください。

OB・OGの探し方

- ① 大学の学生支援センターの情報を利用する。(p.41「卒業生氏名連絡先照会願」を提出する。)
- ② 企業の人事担当者へお願いする。
- ③ 親、兄弟や姉妹、バイト先から人づてに志望業界、企業で働いている社員の方を紹介してもらう。

訪問する際

- ① 訪問前の下準備
訪問先企業について、基本的な情報を調べておく。ホームページは必ず確認する。質問を準備しておく。
- ② 訪問時の注意事項
遅刻は厳禁。メモをとること。
- ③ 訪問後
手紙かハガキでお礼をする。最低でもメール。

質問内容

仕事の内容や会社での一日のスケジュールについてなど、実際の仕事内容について聞きましょう。先輩の就職活動体験を聞くことはOB・OG訪問の本来の目的ではありません。時間が余れば聞く程度に留めておきましょう。

また、卒業生を困らせるような質問や要望は絶対にしてはいけません。

▶ 店舗見学

小売業などを志望する場合、店舗見学も重要です。例えば、あるスーパーで働きたい場合、実際に自分が働きたいと思っているお店に出向き、お店の雰囲気や品揃えなどを調べてみましょう。そうすることで、その企業の小売りとしての方針や、顧客層などが見えてくるでしょう。また、同業他社の店にも出向いてみると、おそらく違った点が見えてくると思います。

こういったことはメーカーでも同様です。同じ商品でも、メーカーによって異なる特徴、狙いがあります。

普段何気なく使っているお店や商品も、消費者目線ではなく、働く側・作る側の視点に立ってみることで全く違って見えるでしょう。このような経験は、インターネットや本だけの情報収集では得られません。自分からどんどん動いて、いろんなところから情報を収集しましょう。

▶ ハローワークを活用する

ハローワークというと「学生の行くところじゃない」と思ってしまうかもしれませんが、決してそうではありません。ハローワークには新卒者向けの「新卒応援ハローワーク」というものもあり、学生を対象としています。(p.60 参照)

ハローワークは無料で求人票を閲覧できるうえ、その地域の求人が充実しています。また、気になる求人票があれば、センター内の職員の方に紹介してもらうこともできます。各都道府県に必ず一つはヤングジョブセンターが設置されているので、特に地元企業での就職を希望する学生は有効に活用しましょう。

■情報収集成功のポイント ～周りの人と情報交換を！～

情報は世の中にさまざまな形で出回っており、その量は膨大です。それを一人で全て調べようとする、それだけで大変な労力です。ですから、いろんな人と情報交換しましょう。

特に、就職活動先で知り合った他大学の学生は自分の知らない情報をたくさん持っているかもしれません。お互いに情報交換をして、情報の質を高めあいましょう。同じ企業を受験している学生はライバルですが、その企業に就職したいという点では同じ目標を持った仲間であり、将来的には同期ともなり得る存在です。そのライバル・仲間達と上手くコミュニケーションを取り、自分のネットワークを広げていくことで就職活動をさらに充実したものにするのは可能です。

また、学生支援室（キャリアデザイン室）の相談員や親などからは、同世代内では聞くことのできない話や情報を聞くことができます。幅広く、いろいろな人とコミュニケーションを図りましょう。